

関市の外に出た人に向けて取り組むべきこと

調査結果から、関の外に出た高卒後～34歳頃の人に向けて取り組むべきことは下記の3つと考えます。

関の情報を届け続ける

関のライフスタイルや
仕事のスタイルの多様性を保つ

Uターンを支援する

関にUターンするためには、Uターンのための情報や支援策も大切ですが、人を受け入れる体制が関の企業にあることが土台となります。働きやすい環境で、地域に貢献していて、続いていく企業。そんな企業がちゃんとあります。

関にこんな企業が増えたいかな

有限会社むげがわ農産

平成12年に設立された、武芸川町で農業をする会社。農作業に当たる9名は若い男性で、8時～5時勤務、土日休み、という「農業のサラリーマン」である。現社長の川口さん(64歳)にお話を聞いた。

「農地を守りながら地元貢献する」を徹底

土地の持ち主が高齢になって、手入れできなくなった農地が武芸川町でも増えている。同社では地主さんに賃料を払って農地を借受け、そこで穫れた物を買ってもらっている。つまり、地元の人は自分たちで耕さなくても、自分たちの田で育った米を食べられるのだ。同社が管理する農地は年々増え、今や武芸川町の田畑の4分の3に及ぶという。しかしあくまで武芸川町限定で、隣接市の農地はお断りしている。

また、ネット販売は一切していない。「商品を皆に食べてもらいたい」という気持ちはあるし、儲かるかもしれないが、ネットを始めるのはリスクが高い。うちは地域貢献の会社。地元の人に食べていただけるような物を作って、それで会社が存続出来て、従業員が生活していければいい」と川口さんは話す。

農業を次の世代が憧れる職業にしたい

農業は体力仕事だから、若い働き手は必要不可欠。若い人が働ける場になるために整えたのは「安定性」と「将来性」。安定した給料や勤務時間、また、トップになれる将来性もある。一介のサラリーマンで終わるのではなく、成果次第で会社の経営者になれる道が拓かれているのだ。社員にも役員にも株主にも定年があり、若い世代に交代し、後継者が育つ環境がある。

やる気があるなら採用する

社員9名のうち、農業知識があった人はいない。皆、知識ゼロからのスタート。「農業は本人の努力次第で結果が出せる」と川口さんはいふ。重視するのは、やる気。面接の受検者があまり話さなかったため、川口さんが3時間しゃべった、という逸話も(最後にはやる気が見えたので採用となった)。「人はどんな人でも、良いところがある。それを農業で引き出せばいい」と川口さん。目指すのは働く人が働く意欲を高めていける会社だという。



かわいいロゴの入った軽トラ

ボランティアで活躍

時間に余裕がある時は、農地の修繕や道路の草刈りなどをする。会社の機械や人員を使っただけで、完全なるボランティア。これは、きれいな景観のなかで農業をしたいとの思いが強くあつたこと。また、社員には消防団に入ることを奨めていて、9人中6人が現役消防団員として活動している。

川口さんは定年を前に代表を辞任となり、31歳になる矢田さんが次の社長に決まっている。



関にし秋の祭典での出店
もち米すくいに長蛇の列ができていた

有限会社 むげがわ農産
関市武芸川町平760-1
0575-46-3660

関市内にいる間に取り組むべきこと

調査結果から、この時期に取り組むべきことは下記の3つと考えます。

関を好きになる

関の企業や産業の構造を知る

親や先生以外の地域の大人との
つながりをつくる

現在すでに様々な取り組みが行われています。その一部をご紹介します。

津保川中学校が修学旅行で 地域の物産販売体験



修学旅行先・東京での販売体験の様子

津保川中の3年生30人が、修学旅行先の商店街で地元の特産品を販売した。総合的な学習の時間「夢活」の一環で、修学旅行先で地元をPRする体験として昨

年度に続き2回目の開催。地元の団体や個人から地元の商品を原価で仕入れ、販売価格をつけて販売する。差額はその後の地域参画活動にあてる。取り扱う品目は、「東京の人に奨めたい」という中学生の希望により決定している。当日は12種類500品をほぼ完売した。

この実施にあたり、修学旅行の事前学習として10時間程度(うち販売準備に4時間程度)、事後学習として売上やまとめの時間をとっている。

3年生担任の古川先生は「声を掛けないと買ってもらえないので、普段はおとなしい子どもでも呼び掛けをして、積極的にコミュニケーションをとろうとする姿が見られました」と話す。

高校生インターン



大野ナイフさんでの腐食の体験

今年の夏休みに、関商工商業科とぶうめらんが連携して、インターンシップを開催した。総合ビジネスコースの2年生77人全員に1日インターンに参加してもらった

ことができた。近年、関商工商業科は求人倍率が10倍以上。いい企業は関にたくさんあっても、大手のネームバリューにはなかなか勝てないとか。であれば、実際に現場で出会ってほしいというのが今回の目的。高校生は1日訪問して、その後、その企業の紹介記事を書いた。

参加企業

(有)三輪塗装、社会福祉法人桜友会、(株)大野ナイフ製作所、おきなや(株)、カフェ・ド・ギャラリアアダチ、協同印刷(株)、濃飛西濃運輸(株)、関牛乳(株)、(有)コパヤシヒーティング

他にもこんな
取り組み

中濃自動車学校×関商工 教習車を高校生がデザイン



今年の文化祭での発表の様子

関商工商業科総合ビジネスコースの商品開発の授業にて、3年生がデザインを考案。10月の関商工の文化祭でお披露目された。

虎屋×関商工 商品開発や高校生カフェ



昨年11月の販売実習の様子

昨年度から、虎屋と関商工商業科総合ビジネスコースが連携して、商品開発を実施。昨年11月には、鮎菓子(チーズ味、チョコ味)等を開発し販売。その後もコラボを続け、今年11月には、わかさ・プラザにあるカフェほんわかで、「高校生カフェ」を実施した。

まとめ
関の将来を担う人材が増えてほしい。そんな想いで取り組みをしています。高校卒業までの取り組みで、「将来、関のために働くんだ」と思う人がもっと増えることがまず第一です。そして、その何割かでも関に戻ってきて、実際に関のために働く。たとえ関に戻ってこれないとしても、世界で、全国で活躍して、地域のために外から働きかけをしてくれる人が増えることが大切です。ぜひ、こんな取り組みをするぶうめらんを応援していただませんか。ボランティアとして、もしくは資金的に、会員の入会案内はP18にあります。(北村)

- 1. 関の若者登録制度**
関の外に出ても、関の情報が手に入るように、高校卒業時に登録制度を設け、登録した人たちに「フリーマガジン」ぶうめらんを送り続けます。
- 2. 企業の採用支援**
求人サイトや人材紹介など、関の企業が採用するときの様々なお困りごに答える取り組みをします。
- 3. 高校生が選ぶ関のいい企業30選**
高校生による審査会を作り、高校生が考える「いい企業」を選定し、表彰、冊子を作ります。

- 小中学校総合学習プログラム作成支援
- 企業への高校生採用支援
- 高校生×企業 高校生ブランド 開発/販売
- 高校生インターン

